

第 20 章

衛生及び環境

第20章 衛生及び環境

医療施設・病床の概況

平成18年10月1日現在の医療施設総数は1万4114施設で、前年に比べ149施設の増加である。これを種類別にみると、病院総数は549施設で、そのうち一般病院が510施設(構成比92.9%)で大半を占め、以下精神病院39施設となっている。なお、人口10万対の病院総数は6.2、一般病院で5.8、1施設当たりの人口は、病院総数で1万6070人、一般病院で1万7299人である。また、一般診療所数は8213施設で、前年と比較すると97施設の増加、人口10万対の一般診療所数は93.1で、1診療所当たりの人口は1074人である。歯科診療所数は5352施設で、前年に比べ55施設の増加、人口10万対の歯科診療所数は60.7で、1診療所当たりの人口は1648人である。

全施設の病床数は11万4328床で、前年に比べ276床の減少である。人口10万対の病床数は1296床で、全病床数のうち96.7%が病院、3.3%が一般診療所の病床(3739床)である。また、病院病床の種類別では、一般病床が6万5237床で最も多く、以下、療養病床が2万4120床、精神病床が1万9889床の順となっている。

死亡の概況

平成19年中の府内の死亡数は7万283人で、7分29秒に1人亡くなったことになる。人口千対の死亡率は8.1で全国の8.8と比較すると低い方である。

主要死因別の順位を見ると、第1位は悪性新生物2万3474人(構成比33.3%)、以下、心疾患1万968人(15.6%)、肺炎7194人(同10.2%)、脳血管疾患6391人(同9.5%)、その他の呼吸器系の疾患2253人(同3.2%)、自殺2202人(3.1%)の順、不慮の事故2116人(3.0%)となっている。

感染症・食中毒・結核患者数の概況

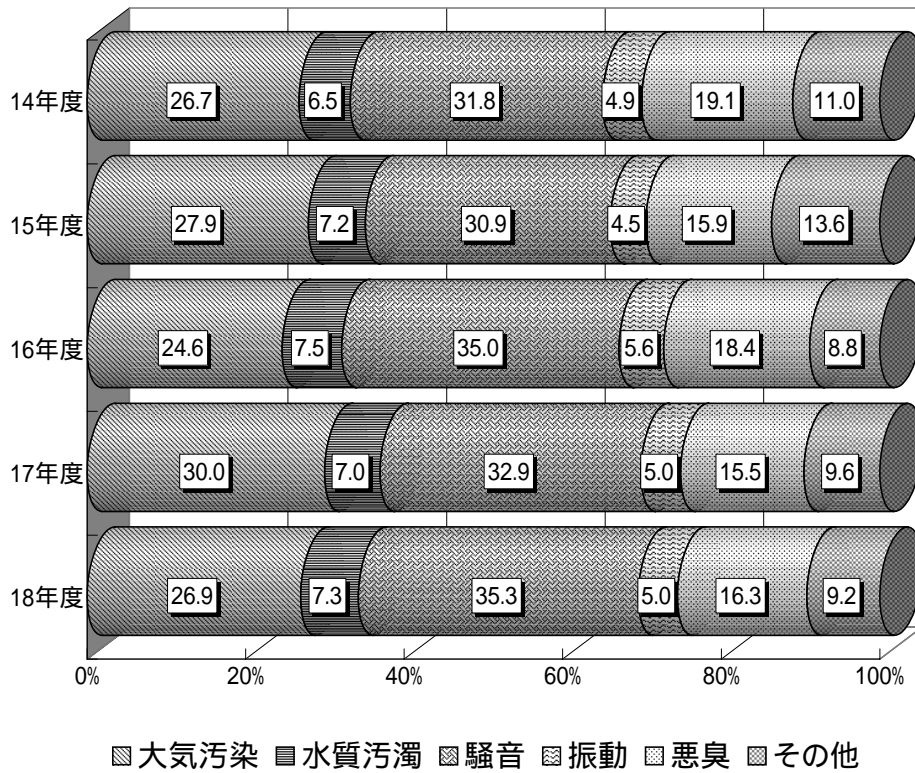
平成19年中で最も患者数が多いのは、結核患者2969人で225人が死亡している。次いで結核患者1911人、腸管出血性大腸菌感染症患者438人の順になっている。

公害の現状

府内の環境問題については、依然として都市・生活型公害や廃棄物の克服が課題であり、また、二酸化炭素の大量排出に伴う地球温暖化現象に代表されるように、ダイオキシン類等有害化学物質問題等、多様化・複雑化した諸問題への対応が求められている。一方、緑豊かな生活環境の実現や個性を生かした都市景観の創造、さらには文化や伝統も視野にいれた、より質の高い環境を保持し創造していかなければならない状況にある。

なお、平成18年度の本府及び市町村が新規に直接受理した公害苦情件数は5010件で、前年度に比べ35件(0.7%)の増加となった。このうち騒音に関するものが1769件(構成比35.3%)で最も多く、以下、大気汚染1349件(同26.9%)、悪臭817件(同16.3%)の順となっている。

公害の苦情件数割合の推移



主要死因別死亡割合（平成19年）

